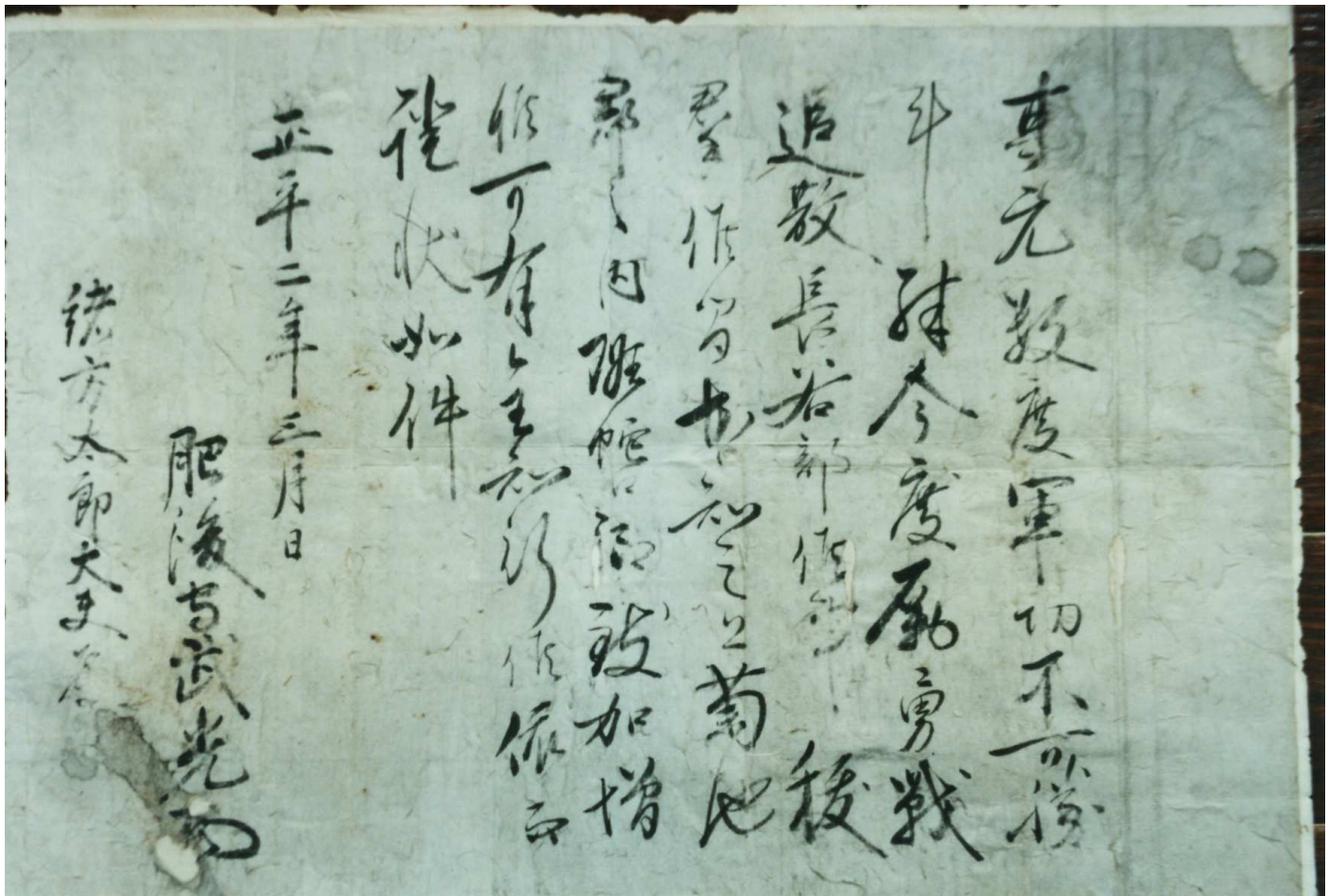


指定日 昭和46年9月19日

所在地 菊池市巨



安見家所蔵の中世文書は菊池当主からの戦功に対する感状である。

1通は正平2年(1347)3月、武光が緒方太郎大夫にあてたもので、竜門ダムのすぐ下、迫間川に勢返しという兩岸が迫った交通の要所があり、ここに豊後大友氏の武将、長谷部勢が侵入してきた時に、菊池勢の緒方一族が待ち伏せして迎え撃ち、撃退したのは抜群の働きだったといい、ほか数度の軍功で知行を加増するという内容である。

もう1通は天授4年(1378)9月、武朝が緒方刑部少輔にあてたもので、この年の詫磨原の合戦において比類ない働きをしたので、「太刀一振と乗馬一疋」を褒美として与えるというものである。

両者とも武士の誉として主人から賞讃される働きがあったという証明であり、一家の誇りうる家宝ともいふべき書状であったと推察される。菊池の棟梁である武光・武朝の貴重な遺筆である。